

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	タイムこどもデイサービスゆつく			
○保護者評価実施期間	2025年2月17日 ～ 2025年3月4日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年2月21日 ～ 2025年3月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1対1で、対応しています。	利用開始の頃は担当を少ない人数で対応して、生活のリズムが整った頃担当を増やしています。	誰が担当に入っても同じ支援ができるようにしていきます。
2	チームで連携して支援をしています。	会議などで情報を共有して、支援の注意点や改善点の確認を行っています。	情報共有をすることにより更に充実した支援を行いたいです。
3	多様な専門職の方にアドバイスを受けながら支援の計画をたてています。	内部、外部の研修を積極的に受けて支援に活かしています。	内部研修を充実させ新たな職員の成長に繋げていきたいです。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	トイレの数が少ないです。	借家のため、あらかじめ1個しかありませんでした。	トイレに入る時間をずらしたりして工夫をしています。
2	保育園や幼稚園との交流、地域のこどもと活動する機会がすくなくいです。	集団活動に参加できないお子さんも多く、集団活動が精神的に負担になることもあります。	保護者と相談しながら、負担にならない程度に参加できるように企画していきたいと思います。
3	利用児の兄弟姉妹が参加できるようなイベントが開催できていないです。	以前は県民の日にボーリング等を開催していたが、コロナから企画する事が難しくなりました。	保護者の方にアンケートをとるなどして兄弟姉妹に限らず祖父母の方も参加できるようなイベントを企画したいです。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		タイムこどもデイサービスゆつく					公表日	令和7 年 3 月 28日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	☐		個別に療育するときは、個室に限られているので部屋の隅やパーティションを使用している。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	☐		1対1の配置である。	時と場合によっては利用定員より多くいて欲しい時がある。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	☐		玄関の段差は台を置いたりして工夫している。	玄関がバリアフリーになっていない スムーズに移動できるようにスロープを使用したりしている			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	☐		毎日掃除をして使用したものは消毒をしている	テーブルや、椅子など形大きさがバラバラなものがある			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	☐		興奮した時などはクールダウンの部屋に行かれる環境になっている				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	☐		ゆつく会議を月2回行い、そのなかでパートも含め職員全体で業務善を進めている。	年度途中でも行っていきたい			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		要望を聞き入れ会議にかけて改善の工夫をしている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	☐		週に1回、会議をもうけている。	送迎車に関する課題が多い			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	☐		法人第三者委員が行っている	法人第三者委員がやっていますが、外部評価もやれるようにしていきたい			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	☐		毎月の合同会議やゆつく会議でミニ研修を、年2～3回は外部講師の全体研修を行っている。また、定期的に専門家の指導を受けている。	外部研修は午前中の研修が多いため、ゆつくは参加できないことも多いので、動画視聴や個別研修も試みている			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	☐			※3月末までに公表することになっており、現在各ディにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPに公表する			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	☐		会議で話し合い計画を作成している。	子どものニーズをつかむのは難しい。また、外国籍の保護者のニーズが合っているのか、コミュニケーションの難しさを感じる時がある。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	☐		作成会議をしている	全員参加が原則だが、参加できなかった人への報連相の仕組みを考えていきたい。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	☐		会議で確認している。	検証・達成のための支援方法の調整・共有が必要である。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	☐		相談支援のものを使用している。	今後独自のものを作成していきたい。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	☐		事業所で適切に設定するように研修を受けている	「移行支援」、「地域支援・地域連携」については、まだまだ面談等での保護者との調整や学校・医療機関・地域との連携が必要である。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	☐		会議で皆で話し合って立案している。	※3月末までに公表することになっており、現在各ディにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPに公表します。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	☐		季節の行事、製作をしたり様々な体験を組んでいる				

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別の療育・集団遊びの計画をしている。	小さい子が多いが、集団活動の幅を広げていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		開始前には打ち合わせ出来ないが、伝達事項は知らせ共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		気づきシートを活用している。送迎があるのでその日ではなく、週ごとに会議を開いている。	重要なことはグループライン等を用い、早く伝達できるように工夫する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		チェックリストや活動報告書に記録をつけている。	日々の記録は全員が必ず読み、サインするように徹底する
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリング会議をもうけ見直しをしている	半年以外でも、必要に応じモニタリングを行っていききたい
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者兼児童発達責任者が参加している	会議の報告を行っているが、全員に浸透しているかの検証が必要である
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	どちらとも言えない		医療機関とは必要に応じ行っている	もっと連携をとれるように積極的に働きかけていきたい
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者からの要望や学校からの要望があったときは情報共有をしている	もっと連携をとれるように積極的に働きかけていきたい
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		管理者及び児発管が相談支援と連携し行っている	もっと連携をとれるように積極的に働きかけていきたい
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域会や子ども部会、発達障害センターの方にスーパーバイズや助言や研修を受けている。	地域の児童発達支援センターとも連携を図っていききたい
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	なかなか難しいが、公共施設や公園で遊ぶ機会はある	交流が苦手なお子さんもいるためなかなかできない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時、連絡帳、電話などで対応している	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		行政や発達障害者センターからの情報を伝えている	ニーズに応じて行っていききたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際、管理者が行っている	外国籍の保護者とのコミュニケーションの難しさを感じる時がある。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時や面談時に意向を確認し、個別支援計画に反映している	外国籍の保護者とのコミュニケーションの難しさを感じる時がある。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談のときにしている 計画を説明しながら同意を得ている	外国籍の保護者とのコミュニケーションの難しさを感じる時がある。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎や面談のときや電話にて相談に応じている	外国籍の保護者とのコミュニケーションの難しさを感じる時がある。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母会でお弁当を食べながら情報の交換をしたり、イベントの時交流できるようにしている	兄弟会は同士はコロナ後はできていない
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		送迎時、連絡帳、電話などで対応し、場合によっては個別に着いていただいて相談を行っている	外国籍の保護者とのコミュニケーションの難しさを感じる時がある。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ゆつく通信、デイ通信を毎月発行し、HPにも掲載している	外国籍の保護者にどう伝えるか、課題である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に、「個人情報同意書」「通信や展示作品への個人名の掲載の同意書」をいただいている。また、鍵のついたロッカーに入れている	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードや写真、ジェスチャー、言語変換器を使ったりしている。通信に載せる写真や名前を保護者に意向を聞いている	外国籍のお子さん・保護者とのコミュニケーションの難しさを感じる時がある。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	毎年『ぼくらのアート展』を開催し、絵画や工作等を通して交流を図ったり、久喜市等のイベントに参加している。コロナ前は、地域交流イベント「X'mas会」に招待していた	人見知りのお子さんもいるためなかなかできないが、また、以前のように地域交流イベントを開催し、地域の方を招待したい
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルは全て作成し、訓練も行っている。また、面談時に保護者に「避難場所の確認と経路」「災害時訓練計画」の説明はしている	一部のマニュアルに関しては、周知徹底がされていないので、全マニュアル周知していきたい
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、研修・訓練も行っている	通信機能が使えないときの判断を考える必要がある
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約の際、管理者が確認している てんかん時等の対応の仕方や救命救急講座を実施している	予防接種の確認は、今後の課題としたい
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	アセスメントの中で保護者から詳細をお聞きし対応している	医師からはもらっていないが保護者の指示に従っている
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画書は作成し、研修・訓練を行っている	カメラ設置等、防犯対策にも今後は力を入れていきたい
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画書をマニュアルファイルに綴じ込み、いつでも閲覧できるように入口に置いてある	面談時に、保護者に安全計画・取り組みをお話し、連携を得られるようにする
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットは3日以内に提出して、ミーティングやゆつく会議で再発防止について話し合っている	ちょっとしたことで気づいたことは、全員がヒヤリハットや気づきシートに書くよう徹底していきたい
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		ディ合同会議でのミニ研修、外部講師による全体研修、県の動画研修、久喜市の研修等の機会を確保している	参加できなかった人への対応は動画視聴にし、全体研修への参加率を100%にする
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現在、該当者はいない。ゆつく会議→身体拘束適正化委員会　で話し合っており、保護者の同意書をいただき個別支援計画書に記載する決まりになっている	身体拘束は最後の手段なので、そうならない支援方法を考えていきたい